

編集後記

第38回フローインジェクション分析講演会前日の11月1日(水)に18:00より、ホテルサンパレスにおいて編集委員会が開催された。諸般の都合で今年度の第1回目の編集委員会でしたが、15名の先生方に出席いただきました。2000年度よりJFIAはA4判2段組となり、大きく模様替えをしましたが、体裁がよく、読みやすくなったなど好評で委員一同喜んでおります。今年度の大きな議題は編集委員の交替でした。河島拓治前委員長から編集委員長を1998年に引き継ぎましたが、編集業務に不慣れなことから、全編集委員にはご無理をお願いして留任していただきました。あれから3年経過し、委員の辞退や退職があり、次年度に向け委員の交替となりました。和田弘子元委員長(元名工大)、河島拓治前委員長(元筑波大)、成澤芳男(元立教大)、馬場嘉信(徳島大)、内田和秀(聖マリアンナ医大)、田中明(熊本大)の各先生方のご退任されました。先生方には論文審査、原稿依頼、学会情報、機関誌の企画など様々な角度からご協力いただき本誌の発展に多大な貢献をしていただきました。この場をお借りして深く感謝致します。また、板橋英之(群馬大)、樋口慶郎(エフ・アイ・エー機器)、森下富士夫(京大)、中野恵文(鳥取大)、田中秀治(徳島大)、受田浩之(高知大)の先生方に新たに加わっていただくことになりました。事務局は手嶋紀雄先生が引き続き担当致します。次年度はICAS2001, Asianalysis VI, ICFIA2001と国際会議が予定されており、ICAS2001ではFIAシン

ポジウムも計画されております。これらの企画に積極的に参加して頂きJAFIA並びにJFIAの発展に繋げていただきたいと願っております。2000年はFlow Analysis VIIIがPoland, Warsawで開催され、その報告がConference ChairであるProfessor Trojanowiczより寄せられ、また、Anal. Chim. ActaのEditor, Professor WorsfordにはForwardをお願いしました。彼らの貢献に感謝します。Personal Reviewは黒田六郎先生(元千葉大)に執筆依頼致しました。黒田先生はJAFIAの創立時よりリードして頂き、JAFIAの発展に大きく寄与して頂きました。お礼申し上げます。本号には外国から原著論文の投稿が3編、国内からも3編あり学術性の高い機関誌に発展しつつあります。これも会員皆様のご協力のお陰です。

第38回FIA講演会は喜納兼勇先生のお世話で琉球大学・大学会館で11月2,3日に行われました。お一人での運営にもかかわらず、大変キメ細かい、そして沖縄ならではの計画を立てて頂き参加者全員が満足して帰路に着いたことと思います。先生のご苦労と我々への心温まるご配慮に感謝いたします。もうひと月で2001年を迎えます。会員の皆様の協力により国際性・学術性のあるJFIAに発展していくことを祈念するとともに皆様のご活躍をお祈り致します。

JFIA 編集委員長
酒井 忠雄